

## 解答・解説

問1 傍線部内の重要古語・文法は次のとおり。

「さらに」打消「……まったく（決して）……ない」  
「だに」…副助詞①せめて「だけでも」〈最低限度の希望〉②「さえ（も）」〈類推〉

副助詞の「だに」は、希望・命令・意志などの表現と一緒に使われている場合は①の「せめて」だけでも」という最低限度の希望の意味になり、下に打消語がある場合の多くが②の「……さえ（も）」という類推の意味になる。「さらに」家の内の人にだに知らせず」なので、①「さらに」打消の意味である「まったく（決して）……ない」が訳しているもので、②下に打消語の「ず」があることから類推の「……さえ（も）」で訳してあるものを探せばよい。

ア 女の人の素性を私が知らないだけでなく、家の中の人にも知らない  
[さらに「打消」の訳ができていない。類推の「だに」を訳せていない。] (X)

イ 女の人がどのような身分の人なのかを家の人には知らせない  
[さらに「打消」の訳ができていない。類推の「だに」を訳せていない。] (X)

ウ 女の人がどういう人だとは、その家の中の人にさえまったく教えない  
[さらに「打消」の訳ができていない。今後どうしていけばよいかは、本文にない。] (X)

エ 女の人の素性を知り、今後どうしていけばよいかが家の人でもわからない  
よって、正解はウ。

問2 傍線部内の重要文法は次のとおり。

「ばや」…自己の希望の終助詞「～たい（ものだ）」

「知らばや」は「知りたい」という意味で、ここでは光源氏がそう思ったきつかけを探すとよい。惟光が光源氏に対して、「文書とてみて侍りし人の顔こそ、いとよく侍りしか（＝手紙を書くということで座っていた女性が美しい）」と報告していることに着目する。

ア 惟光が手紙を美しく書く女性を紹介しようかとは言っていない。(X)  
[文書「女性」が「いとよく」つまり美しいことを押さえている。] (○)

イ 惟光から手紙を書いていた女性の顔が非常に美しかったと聞いたから。  
[美しい女性を探すようには命じていない。] (X)

ウ 惟光に美しい女性を探すように命じ、発見したと連絡があったから。  
[光源氏のために様子を見に行った。] (X)

エ 惟光が偶然通りかかったときに見た女性の顔がこの上なく美しかったから。  
よって、正解はイ。

## 古文の世界

垣間見

平安時代の貴族は、一二歳ぐらいで、現在で言う成人を迎える。男性は「初冠（元服）」、女性は「裳着（髪上げ）」という儀式を行う。成人する前は家族として一緒に暮らすことはあるが、成人すると他人になり、顔を合わせるできない。そのために男性が女性の家をのぞくという「垣間見」が生まれた。「垣間見」が認められている理由は、異性と出会う方法が「噂」もしくは「垣間見」しかなかったからと考えられている。恋愛も、女性は家で男性が来るのをじっと待つ、というのが基本で、男性は「垣間見」した女性に恋の歌をしたためた手紙を送り、女性はその気に入らなかったならば返歌をしたためた手紙を返す、という方法をとる。

出典 源氏物語

平安時代中期の物語。世界的にも最高の文学であると評価されている。主人公光源氏を中心として七十余年にわたる宮廷の貴族の生活の内情が優美かつ克明に描かれている。

# 9 復習 「源氏物語」

## 解答・解説

### 文法Q 省略Q 解答と品詞分解・現代語訳

今日もこの葎の前係助 代格助 格助 渡りしサ変用 係助 終格助 終 給ふ。カ変用 過体 係助 終格助 終 来し方も過ぎ給ひけん断已 接助 係助 終格助 終 辺りなれど、ただはかなき二節に御心とまりて、  
今日もこの葎の前を通り過ぎなさる。これまでも通り過ぎなさったるう断已 接助 係助 終格助 終 辺りであるが、ただちよつとした出来事一つにお心がとまって、

君は

いかなる人の住み処ならんとは、往き来に御目とまり給ひけり。  
どんな人の住まいなのだろうと、行き来（のたび）にお目がとまりなされた。

惟光、日ごろありて参れり。ラ変用 接助 終格助 終 「わづらひ侍る人、なほ弱げに侍れば、とかく見給へ扱ひてなむ」など聞  
惟光が、何日かして参上した。ハ四用 接助 係助 終 「わづらつております人が、やはり病弱でございますので、とにかく看病に手がかかっておりまして」などと申し

こえて、近く参り寄りに聞こゆ。「仰せられし後なん、隣のこと知りて侍る者呼びて、問はせ侍りしかど、  
上げて、おそは近く寄って申し上げる。「おっしゃった後、  
惟光は 隣のことを知りております者を呼んで、尋ねさせましたが、

はかはかしくも申し侍らず。いと忍びて、五月の頃ほひより物し給ふ人なんあるべけれど、その人とは、  
はつきりとは申しません。たいそう人目を避けて、五月の頃から来いらつしやる人があるのですが、  
誰だとは、

類推の副助詞

強意の係助詞

さらに家の内の人になに知らせず、となん申す。時々中垣の垣間見し侍るに、げに若き女どもの透影見  
その家の中の人にさえまったく知らせていない、と申します。時々、中垣からの垣間見をしますと、  
確かに若い女たちのすだれ越しの姿が

え侍り。褶だつもの託言ばかりひきかけて、かしづく人侍るなめり。昨日、夕日の名残なくさし入りて  
見えます。褶のようなものを言い訳程度に引っかけ、お世話する人がいるようです。昨日、夕日が（部屋中）いっぱい差し込んで

強意の係助詞

（自己の）希望の終助詞

侍りしに、文書くとてゐて侍りし人の顔こそ、いとよく侍りしか。もの思へるけはひして、ある人々も、  
おりました時に、手紙を書くというこで座つておりました人の顔が、とても美しくございました。もの思いにふけっている感じがして、その場に居合  
わせた女房たちも、  
忍びてうち泣く様などなむ、しるく見え侍る」と聞こゆ。君うち笑み給ひて、知らばや、と思ほしたり。  
ひっそりと泣いている様子などが、はつきり見えました」と  
惟光は 申し上げる。光源氏はほえみなさつて、知りたい、とお思いになった。

### 単語Q 解答

- ア ちよつとした。  
イ はつきりしている。  
ウ 人目を避ける。  
エ はつきりしている。